第６５回総会研究集会　2018年6月15日

国立大学図書館協会ビジョン２０２０に基づく活動について

-ビジョン採択から２年を迎えて-【重点領域② 知の創出】

エンベディッド・ライブラリーを目指して：信大図書館の新たな学修支援サービスを中心に

信州大学附属図書館 管理課長
／副館長（事務担当）
森　いづみ
mori_izumi@shinshu-u.ac.jp

信州大学 | 附属図書館
SHINSHU UNIVERSITY

【写真】信州大学附属図書館（左から中央図書館、教育学部、医学部、工学部、農学部、繊維学部の各図書館）

信州大学の位置づけ・目標

- **信州大学の基本的な目標**（第3期中期目標前文より）
  - ✓信州大学は、山々に囲まれた自然環境及び信州の歴史・文化・伝統を大切にし、人に優しい社会を目指します。さらに総合大学として世界に通じる教育・研究を行い、自ら創造できる人材を育成するとともに、地域・社会の発展に貢献します。

- **信州大学：第3期中期目標期間中の「3つの枠組み」のうち「重点支援①」**
  - ✓主として、人材育成や地域課題を解決する取組などを通じて地域に貢献する取組とともに、専門分野の特性に配慮しつつ、強み・特色のある分野で世界ないし全国的な教育 研究を推進する取組等を第３期の機能強化の中核とする国立大学を重点的に支援する。

※重点支援①「地域と特色分野の教育研究（地域）」55大学

重点支援②「特色分野の教育研究（特色）」15大学

重点支援③「卓越した海外大学と伍した教育研究と社会実装（世界）」16大学

【参考】

『信州大学概要2017』 https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/media/publications/

国立大学法人運営費交付金の重点支援 http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/30/03/1402999.htm

信州大学・信州大学附属図書館概況

● 信州大学における附属図書館の割合

事項	大学	附属図書館
キャンパス ・学部数	5キャンパス、8学部（人文、教育、経法、理、医、工、農、繊維）、7研究科 →1年生は全員松本キャンパス 教育学部、工学部、農学部、繊維学部 →2年次で各地キャンパスへ移動	5キャンパス、 6図書館 （中央、教育、医、工、農、繊維）
予算規模【※】 （平成27年度）	支出：約51,919,000（千円） 病院関係除く ：約31,237,000（千円）	中央図書館決算額： 約268,000（千円）全支出の0.5% 病院を除く支出の0.85%
職員数【※】 （平成27年度）	教員：1,153名 職員：1,384名（病院職員除く：455名）	全図書館職員 定員：19名、全員：45名 病院を除く定員職員の4.17%
学生数 （平成28年度）	約11,000名 （休学留学等除く：約10,700名） 学部学生：約9,100名 大学院生：約1,900名 うち、留学生：約300名	全図書館（6館）の年間入館者数： 783,292（多いか少ないか？） →休学留学を除き何れかの図書館に1回でも入館した学生ID数：10,355 →利用率約97%

【※】『信州大学概要2017』 https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/media/publications/

国大図協ビジョン2020と信大図書館①

- 重点領域1 知の共有:〈蔵書〉を超えた知識や情報の共有
  - ✓研究・教育に資する学術情報基盤の整備
    - 電子ジャーナル等の課題に取り組む部会の設置<H30年度～>
    - 電子ブックの積極的導入（丸善試読サービス：4回目実施中）
  - ✓研究成果・歴史情報の発信
    - 機関リポジトリ（SOAR-IR）科研費報告書・成果論文を重点的に収集

      ※オープンアクセス方針策定は未検討、RDMに関するオンライン講座を関係者が受講（図書館 総合情報センター 研究支援課）＝オープンサイエンスについて共通言語を持つ

      ※研究倫理面における研究データの保管：学内ルール化された段階
    - 研究者情報（SOAR-RD）との連携

      ※視認度評価分析システム（SOAR-RVAS）の休止<H29年度>
    - 大学史資料センターの設置<H29年度～>

      ※大学70周年/旧制松高100周年事業に向けたデジタルアーカイブの構築を準備中
  - ✓地域情報の発信
    - 信州共同リポジトリ
    - 災害アーカイブ「濁流の子」

      ※遺跡リポジトリ：文化庁の方針により自治体セルフアーカイブのサポートへ

従来の取り組みの意義を確認しつつ、力の入れ所の強弱、優先順位付けにより、中・長期的な視野で、無理なく新しいことへのチャレンジを進めたい

国大図協ビジョン2020と信大図書館②

- 重点領域2 知の創出：新たな知を紡ぐ〈場〉の提供

✓ラーニング・コモンズ的空間整備
- ディスカッション可能なオープンスペース、グループ学習室の整備
  ※一部の学部図書館では検討中

本日のメインの話題

✓学修支援サービスの展開
- 中央図書館：ピアサポ@Lib（ラーニング／ライティング）<H30年度>
- 工学部図書館・農学部図書館（試行）：ラーニング・アドバイザー
- 教育学部図書館：分野ごとのパスファインダー作成

✓知の森昼どきセミナーの開催
- 中央図書館：教員によるミニレクチャー<平成27年～23回開催>
- 各学部図書館にもTV会議システムで配信。市民の参加もあり

✓展示コーナー・セミナールーム・ホールの活用
- 中央図書館：教員や学生の企画による展示やイベントを多数開催
- 工学部図書館：つきいちビブリオバトル、受賞学生によるポスター・セッション

知の森昼どきセミナーの様子

●信州大学 大学史資料センター第1回企画展「信州大学今昔（いまむかし）」
タイアップセミナー 「信州大学誕生」＜福島特任教授＞

●山の日記念特別展「ヨーロッパ近代登山と日本
書物で繙く登山の歴史①」タイアップセミナー
＜人文学部
・渡邉館長＞

●「マツコも知らない化石の世界」
＜理学部・山田准教授＞きっかけは…

展示コーナーの学内外部署による活用例

セミナーで話してくれたら
お礼に差し上げますよ（渡邉館長）

（信大図書館キャラクターの）
ナナちゃんバッグほしいです（山田先生）

- 「恐竜がいた時代の化石たち」
  ＜理学部・自然科学館＞
  信州大学長期ビジョン2030
  教育WTでの出会い
  - ⇒ 知の森昼どきセミナー
  - ⇒ 自然科学館のアウトリーチ活動として図書館で展示
  - ⇒ 事務の方と連携・調整して
  - ⇒ 教員と学生によるギャラリートーク実現

連携の拡がりと深まり

国大図協 ビジョン2020と信大図書館③

- 重点領域3 新しい人材：知の共有・創出のための〈人材〉の構築

✓ピアサポ@Lib（ラーニング・アドバイザー/ライティング・アドバイザー）による教職員学生協働　本日のメインの話題

✓卒業研究による「協同学習」ハンドブック作成

- 『友達と今すぐできる/わかる 協同学習』 <H29年度>

ラーニング・コモンズを活用した、学生だけで作る新しい学びの形について、さまざまなアクティブラーニングの技法をまとめたハンドブック。
検討段階において図書館職員も関わる→中央図書館に配置
作成者の学生が、教職員向けセミナー「大学図書館の学習空間と学修支援—世界・日本・信州の事例から—」（John Augeri氏講演）にも参加

✓大学史資料センターによる大学周年事業準備

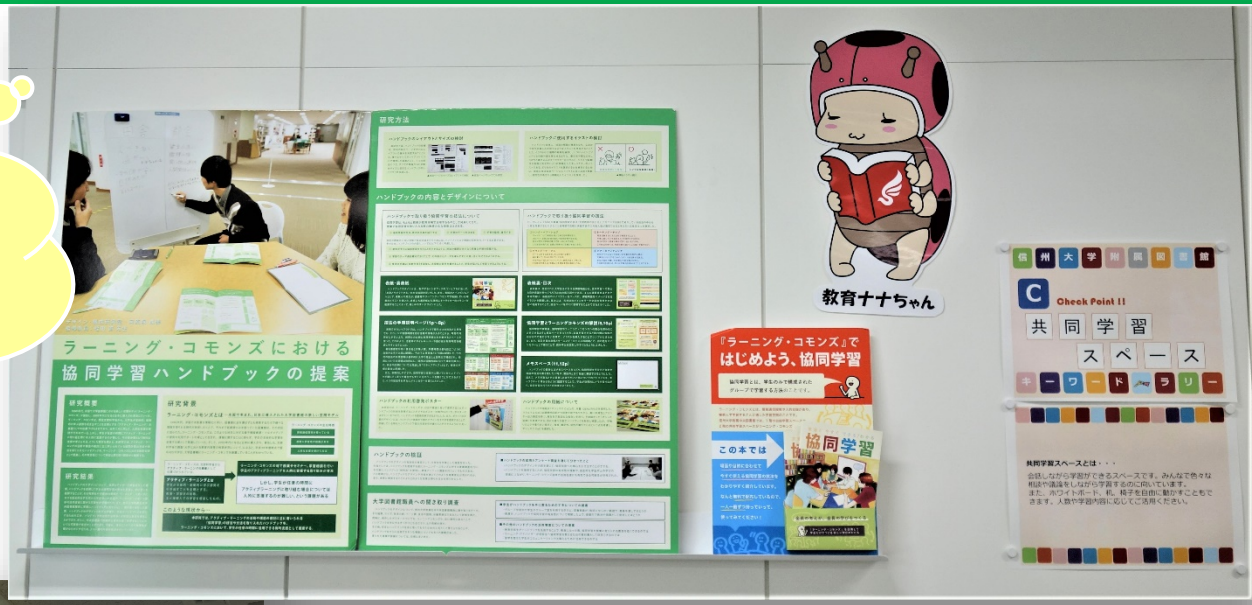
- 教職員学生の協働によるコンテンツ作成プロジェクト始動<H30年度～>

✓「信州知の連携フォーラム」の開催

- 県立長野図書館、長野県立歴史館、長野県信濃美術館との協働によりMLA連携（Museum, Library, Archive）のあり方・人材育成を考える枠組　<平成28年度～>

「協同学習」ハンドブック活用に向けて

アクティブラーニング
の技法を知れば、
思考・議論はもっと
活発になる。深まる。



←↑

●グループ学習室の壁にコンセプトの
ポスターを掲示。
ハンドブックの現物は自由に手に
とって使ってもらう形。

新たな知を紡ぐ
＜場＞の提供

信州大学 | 附属図書館
SHINSHU UNIVERSITY

●編・挿絵：河原塚成美 信州大学教育学部平成29年度卒業

「エンベディッド」とは何か

- エンベディッド(embedded)とは
  - ✓一般的意味：
    - embed：はめ込む、埋める、(…を)深く留める、(…を)埋め込む
      →embedded：埋め込まれた
  - ✓IT用語：
    - embedded system：組み込みシステム：家電製品などに搭載された、特定機能を実現するためのコンピュータシステムの総称
  - ✓図書館業界での用語：

    海外派遣の金田さんの報告でも出てきた
    - embedded librarians：エンベディッド・ライブラリアン： 2000年代半ば～
      利用者の属する環境でニーズに即した様々なサービスを提供
    - 利用者の専門分野の会議・セミナーへの参加などを通じて
    - 大学図書館：研究室での情報利用や情報管理の研修といった利用教育の場
    - 企業の図書館：マーケティングや組織の運営の場における、意思決定などに関わる外部情報の収集・分析、組織内情報の管理など
    - 図書館の目的より、利用者が持つ目的達成に共同参加するという理念

    谷口さんの報告で出てきた「アウトリーチ」とも近そう

【参考】weblio https://www.weblio.jp/
鎌田均. 動向レビュー:「エンベディッド・ライブラリアン」:図書館サービスモデルの米国における動向. カレントアウェアネス. No.309 2011年9月20日

なぜ「エンベディッド」か①

- 信州大学における「長期ビジョン2030」の検討

✓趣旨：

- 2030年以降、少子高齢化、技術革新（AI, IoT, ビッグデータ）やグローバル化の進展に伴う就学・就業構造、産業構造や社会システムの変化が見込まれている。このような環境変化等を見据え、信州大学としてどこをとがらせていくか、長野県の大学としてどうしていくかを意識した検討をおこない、信州大学としての方向性を提示する。
- 今後、各担当（法人本部・部局）が諸課題を検討する際に、議論の土台となるものとしたい。
- 2019年6月の大学70周年（旧制松高100周年）でお披露目。

✓長期ビジョンの対象期間：

- 2030年（H42）以降を見据えることとする

※政府検討における一つの区切り、切りが良い数字

※18歳人口は101万人、2031年（H43）に100万人を切る

【参考】信州大学 第172回（H29.7.19）教育研究評議会資料
「信州大学長期ビジョン（仮称）の策定について （素案）」より

なぜ「エンベディッド」か②

- 信州大学「長期ビジョン2030」検討体制図

学長

役員会

教育研究評議会

長期戦略部会
担当理事／副学長／担当課

戦略企画会議
中間まとめ・最終案の作成を指示

↑洗い出し課題の取りまとめ、
中間まとめ・最終案の作成

↓大くくりな事項ごとに中長期的な課題の洗い出し

教育 WT	研究 WT	社会連携 WT	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ WT	大学運営 WT	病院 WT
担当理事 ／副学長 教員 担当課	担当理事 ／副学長 教員 担当課	担当理事 ／副学長 教員 担当課	担当理事 ／副学長 教員 担当課	担当理事 ／副学長 教員 担当課	担当理事 ／副学長 教員 担当課

当初案には、図書館がどこにも入っていなかった…ショック！

【参考】信州大学 第172回（H29.7.19）教育研究評議会資料
「信州大学長期ビジョン（仮称）の策定について （素案）」より作図

なぜ「エンベディッド」か③

- 信州大学「長期ビジョン2030」検討体制図

学長

役員会

教育研究評議会

長期戦略部会
担当理事／副学長／担当課

↑洗い出し課題の取りまとめ、
中間まとめ・最終案の作成

戦略企画会議
中間まとめ・最終案の作成を指示

大学図書館　3つの機能
「教育・学習支援」「研究支援」
「地域貢献」→存在感？
→相手に伝わってこそ

↓大くくりな事項ごとに中長期的な課題の洗い出し

教育WT	研究WT	社会連携WT	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙWT	大学運営WT	病院WT
担当理事／副学長 教員 担当課	担当理事／副学長 教員 担当課	担当理事／副学長 教員 担当課	担当理事／副学長 教員 担当課	担当理事／副学長 教員 担当課	担当理事／副学長 教員 担当課

教育WTに参画→大学の中に「埋め込まれた図書館：エンベディッド・ライブラリー」を目指す必要性を強く認識

【参考】信州大学 第172回（H29.7.19）教育研究評議会資料
「信州大学長期ビジョン（仮称）の策定について　（素案）」より作図

「エンベディッド・ライブラリー」を意識した事例

- 図書館のピアサポートによる学修支援サービスはラーニング・アドバイザーとライティングセンター2本立て
- 担当者の努力と実績によって、教職員学生協働がとても活発
  →強みを更に活かしたい →ピアサポ@Libとしてリニューアル

1. ラーニング・アドバイザー（LA）
   - ✓ 全学生対象。理系基礎科目、語学、レポート、図書館活用等の相談を受付。
   - ✓ 平成28年度実績：450回、平成29年度：390回（体制が整わなかったため）
   - ✓ 理系基礎科目の相談：9割、学部1年生からの相談：9割
   - ✓ 次世代戦略プロジェクトと学内GPで財源確保
2. ライティングセンターによるレポート作成個別指導、書き方講座（Wセ）
   - ✓ 個別指導は大学生基礎力ゼミ受講生に限定。書き方講座は全学生対象
   - ✓ 財源：全学教育機構から
   - ✓ 平成29年度前期実績：
     - 個別指導：指導員7名、受講生270名、指導回数548回
     - レポートの書き方講座（全4回）：前期：566名、後期：41名

※ 新入生ゼミナール科目における図書館ガイダンス　平成24年度～1年生全員受講

初年次生の学修支援が重要な信大事情

- ✓ 初年次生は全員松本キャンパス。
- ✓ 教育、工学、農学、繊維の各学部は2年進級時に各地キャンパスへ移動する。各地学部の学生が無事に進級できれば「離松」。
- ✓ 単位を落として松本に授業を受けに通う場合は「通松」、進級できず留年することを「残松」と呼ぶ。

1ページ SHINMAI YOUNG JOURNAL

信毎 ヤンジャ

情報はヤンジャ編集部
☎026-236-3215 メール yanja@shinmai.co.jp

新入生歓迎会の内定を祝し合う信大生協学生委員会メンバー＝信大松本キャンパス

信州大学（本部・松本市）での取材中、「在松（ザイマツ）」「離松（リマツ）」といった聞き慣れない単語を、学生が普通に使っていることにヤンジャ編集部員は気付いた。松本キャンパス（松本市）で1年次を過ごした後、2年次には県内に散らばる各学部へ進む信大独自の言葉だという。新年度目前の1年生3人が、それぞれの立場で「信大用語」を説明してくれた。

長野(工学)キャンパス・工学部
長野(教育)キャンパス・教育学部
松本キャンパス・人文学部・経法学部・理学部・医学部・全学教育機構
長野市
上田市
松本市
上田キャンパス・繊維学部
南箕輪村
伊那キャンパス・農学部

信州大学の広域型キャンパス　信大は県内の5キャンパスに、8学部が点在している。全学部の1年次（医学部医学科は2年次まで）は、松本キャンパス内の全学教育機構で、教養や基礎の共通教育科目を中心に受講する。2年次（医学部医学科を除く）からは、各学部で専門科目を主に受講する。2年次に進める取得単位数などの条件は学部や学科・コースにより異なる。松本キャンパス以外の学部生は、2年次に進級する際に、通常は引っ越しが必要。

1年生は みんな松本　2年生から各地の学部へ

新入生 必見！「信大用語」の基礎知識

りまつ **【離松】**
進級で松本キャンパスを離れること。

ざいまつ **【在松】**
松本キャンパスに学部があり、基本的に4年間（医学部医学科は6年間）、松本にいること。

つうまつ **【通松】**
離松の学部生なのに、落とした単位を取得するため、他キャンパスから松本に通うこと。

ざんまつ **【残松】**
単位を落としすぎて留年し、他キャンパスに移らず、松本に残ること。

【出典】信濃毎日新聞「Shinmai Young Journal」2018.3.23 （赤枠は発表者作成）

信大生にとって、1年次の必修単位を落とすのは、絶対に避けたいこと

ラーニング・アドバイザーへの相談者：各地学部の1年生が約7割を占める

七夕の笹飾りの短冊にも頻出

従来の支援サービスの強みと課題①

- ラーニング・アドバイザー

✓強み：

- 学部1年が9割、理系基礎科目（数学、物理、化学等）の相談が9割を占めるという顕著な特徴があり、ターゲットが絞りやすい。
- 初年次教育段階における学力レベルの底上げに寄与できる。
- 「LAマニュアル」を作成し、質の担保や人材育成に貢献。

✓課題：

- 年度当初に体制が充実していることが必要だが、担い手確保が困難な状況。
  - 平成28年度～全学教育機構の教員（数学、化学）による指導の開始
  - 平成29年度～松本キャンパスの理系学部との調整により、担い手となる学生の確保に成果あり（全学教育機構長と附属図書館長が、理学部長、医学部長などと懇談）
- 繁忙期以外は相談が少なく、人材が活用できていない。
- 語学、レポート作成という支援メニューが利用実績に繋がらず、サービスのあり方の見直しが必要。

従来の支援サービスの強みと課題②

- ライティングセンター

✓強み：

- 授業（平成29年度：「大学生基礎力ゼミ」15コマ）との密接な連携により、指導員の確保（既受講生から優秀な学生をスカウト）、トレーニングが体系的になされており、指導内容の質が担保されている。
- 学生の活用度が高く（成績評価に反映）、指導の成果も見えやすい（レポートの成績が良い）。
  - 初年次で履修した科目全ての成績の平均点が、「大学生基礎力ゼミ」受講生群は非受講生群より平均点が約2点高い（※）。

✓課題：

- 体制に対して相談件数が多く、かなりの負担になっている。
- 個別指導の対象を全学に展開するのが難しい（大学生基礎力ゼミ以外の学生に対応できる受入体制を整える必要がある）。
- 前期のレポート書き方講座は授業の学生が8割。後期のレポート書き方講座は、参加者が少ない。
- 場所が比較的静かな閲覧席に隣接。話し声が気になる。

【※】加藤善子ほか. 学修支援を組み込んだ初年次セミナーの意義-初年次生のニーズを早期に把握し、移行を支える試み-. 広島大学高等教育研究開発センター大学論集 50. 129-143. 2018.3

従来の支援サービスに共通する課題

- サービスが個別独立に動いており、連動していないことに起因する課題
  - ✓支援を受ける側の学生・勧める側の教員：分かりにくい、使いにくい
  - ✓支援する側の体制：体系的サービスとして展開しにくい、融通が利かない（図書館担当者の悩み：課題は見えているけれど…）
  - ✓教学組織においても、教育改革の推進の中で学修支援は重要課題だが、それぞれの枠の中での検討にならざるをえなかった
    - ラーニング・アドバイザーは全学教育機構、ライティングセンターは高等教育研究センターとの連携。
    - 全学部の学修支援サービスを調査→学部固有の取組もある。
    - 担当はそれぞれ。学務部（学務課、共通教育支援室）、学部事務など
    - リソース（財源、人材）の取り合いになってしまっている(?)
  - ✓目標・計画管理上の課題：
    - 中期目標・中期計画において、異なる事項に異なる責任部局で同様の内容が記載
    - 初年次教育全体で「ニーズの把握」「担い手の安定的確保と教育」「財源の安定的確保」が必要

関係部署の協働による課題への取組①

- 課題解決に向けた具体的な進め方を図書館が提案
  - ✓附属図書館のニーズ調査（アンケート：図書館に望むサービス）、高等教育研究センターと各学部の懇談会（各学部に進学する前の初年次生へのサポート状況）から、図書館における学修支援サービスへの学生・教員からのニーズの高さは明らか
  - ✓学内の学修支援サービスを調査し一覧表を作成。第一段階として、全学的見地から、初年次生へのサポートの充実が急務
  - ✓解決策の方針：図書館における学修支援窓口の一本化
    - 学生が必要とする時期に充分な内容の支援が受けられるよう、ラーニング・アドバイザー（LA）とライティングセンター（Wセ）を再編し、体系的なサービスに。対象・内容・体制を整理して柔軟性を高める。
  - ✓具体的な方策案：
    - Wセの個別指導の対象を基礎力ゼミに特化せず、教養ゼミ（レポート課題が成績評価になる授業）にも広げることにより、全初年次生をターゲットとする。
    - Wセの予約時、基礎力ゼミ受講生以外の場合は、LAの予定を確認し、近い分野のLAに廻せることとする。

関係部署の協働による課題への取組②

- 課題解決に向けた具体的な進め方を図書館が提案

✓量的な問題

- 前期のWセは基礎力ゼミ受講生だけでもオーバーフローしている状況
- LAの繁忙期と重複することも考えられる

✓質的な問題

- Wセの指導員は、基礎力ゼミの既受講生を充てることで質を担保している。異なる内容・分野のレポートを指導できるのか。
- 理系基礎科目の指導のみを行っているLAに、適切なレポート指導ができるのか。平成29年度からは院生のみならず学部生に広げている。

関係部署の協働による課題への取組③

- 課題解決に向けた具体的な進め方を図書館が提案

✓量的な問題への対処

- LA及びWセの体制を厚くする。
  →予算の確保が必要
- LAのレポート指導は、Wセの予約システムで業務量を把握する。
  →e-learningシステムでの設定と運用方法を検討中

✓質的な問題への対処

- 「教養ゼミ等での授業レポートの基本型」を作成・提示することによって、Wセの指導員が基礎力ゼミ以外の授業のレポートを指導する際の根拠とする。
  →新入生に配布するハンドブックを改訂
- LAは、Wセのレポート書き方講座、指導員のための研修を、業務として受講することとする。
  →平成29年度後期の「レポートの書き方講座」受講や、平成30年度合同研修会開催など

関係部署の協働による課題への取組④

- 「エンベディッド」なサービスであるために

✓関係者との綿密な打ち合わせ

- 個別の打ち合わせ→全ての関係部署が顔を合わせた打ち合わせ
- 教育担当理事を交えた打ち合わせ
- 教務委員会、教育・学生支援連絡調整会議での情報収集と報告

✓信州大学長期ビジョン2030 教育WTにおける議論

- 「中長期的な課題の洗い出し」において、大学入学者の基礎学力・思考力の低下傾向を予測し、プラスに転じるために、図書館における学修支援策を教育改革の流れに組み込むことを提唱→前倒しで部局推進プロジェクトとして提案

✓財源の確保

- 信州大学次世代戦略プロジェクト【中期目標達成推進経費】部局推進プロジェクト（全学教育機構、高等教育研究センター、学務部との連携）による予算獲得
→3年プロジェクト→時限ではない経常経費の獲得を目指す

✓第3期中期目標における年度計画の整理

- ピアサポートによる学修支援項目を一本化（担当：学務課、附属図書館）
- 図書館そのものの存在感を示すことよりも「埋め込まれる」ことを優先

課題解決を成功させるための要件①

- **新学修支援サービス「ピアサポ@Lib」**

1. 体制面で教育に「エンベディッド」であること

- 両者が緊密に連携し、ピアサポ@Libとして一本化したうえで、ライティング支援機能とラーニング支援機能を持たせ、それぞれの機能を強化
- 従来図書館の1階と2階に分かれていた場所を、2階の共同学習スペースに集約
- 支援の担い手となる学生の確保については、各学部からの協力を得る
- 学生相談センターからの紹介もあり得る。発達障害を理解するセミナーを開催

①ライティング支援部門：ライティング・アドバイザー

- 大学生基礎力ゼミ（2017年前期：14コマ）特化から、レポートを主な成績評価手段とする教養ゼミ（2017年全95コマ中、前期：18コマ、後期：25コマ）に拡大することで、すべての初年次生を対象とする。

②ラーニング支援部門：ラーニング・アドバイザー

- 理系基礎科目を中心としつつも、語学やレポート作成の実質的支援が可能となるよう、教育プログラムの改善、体制強化を行う。

課題解決を成功させるための要件②

- 新学修支援サービス「ピアサポ@Lib」

2. 活用面で教育・学習活動に「エンベディッド」であること

- ニーズがあり体制が整っても、活用されない状況が想定される。サービスを初年次教育の全学的な補完システムと明確に位置付けること、授業担当の教員に活用され、学生（支援される側・する側）のモチベーションを高める工夫が必要不可欠。

  →未履修問題（受験科目と必修科目のズレ）を解決するための授業との連携等（共通教育の在り方見直しとの連動）

- 支援を必要とする学生の自覚と行動を促すには、教員からの働きかけが効果的と考えられる。

  →入学時からの広報、授業内での紹介、単位認定との連動

  →『新入生ハンドブック』「レポートの基本形」の活用

本来の「エンベディッド・ライブラリアン」は図書館の外に出てサービスをすること。
ピアサポ@Libは図書館内のサービスだが、教育改革や教育・学習行動そのものに「埋め込まれた」図書館であるという意味で使用してみた。

ピアサポ@Libのリニューアル後

- アドバイザーの学生たちの声
  - ✓ 合同の研修会を受講して、顔の見える関係になり、お互いがやっていることがわかるようになり、自信を持ってもう一つのサービスを紹介できるようになった。
  - ✓ 予約等のシステム整備は今後の課題だが、場所が隣り合っているのでライティング・アドバイザーのレポートの予約が一杯の時に、すぐにラーニング・アドバイザーに回すことができた。
- プロジェクトを主導する教員からの声
  - ✓ 全学部の初年次生にとってハードルが低い図書館にあるからこそ意味がある。
  - ✓ 授業外の学びの理想は、学生同士の学び合い。 教員は困ったときの最後の支え手でありたい。
  - ✓ サービスの活用と担い手確保について、学生・教員双方に、機会を捉えて伝えたい。
- リニューアル後の利用状況
  - ✓ ライティング・アドバイザー：7名体制、のべ272回（6/4時点）
    - →例年より落ち着いてスタート。授業のレポート書き直し締切りを前にフル予約。
  - ✓ ラーニング・アドバイザー：5名体制、61件（5/31時点）
    - →例年より相談者が来始める立ち上がりが早かった。質問も多め。
    - →来館が学修相談目的か否か、リピーターか初回か等、記録を取っている。

※様々な指標で、サービスの効果の分析と評価を行う予定

ピアサポ@Libの様子

●リニューアル後　→
2人掛けのテーブルと椅子を
追加して、全部で6セット設置。

手前の3組がライティング。
奥の1組がラーニング。

ライティングであふれた相談者を
ラーニングにバトンタッチできた。

●合同研修の様子
テーマ：傾聴力UP

←ライティング・アドバイザー
とラーニング・アドバイザー、
教員・職員が顔の見える
関係に。

「エンベディッド・ライブラリー」を目指して

- 図書館の外側から発想する
  - ✓ 「図書館が」何をするべきか（したいか）も大事。しかし、それだけでは、なかなか変化は起こせない
    - 学生は、教員は、何を求めているのか
    - 大学は、社会は、何を求めているのか

図書館の存在感を示すことが目的ではなく、結果として付いてくる

- 課題解決のリソースになる
  - ✓ 困っている人・状況へのソリューションになるために
    - 図書館の強みは、全分野・組織を横断的に見ることができる・話してみることができること
    - 図書館員自身が、課題解決に導くためのリソースになれる
    - 図書館が部署間をつなぐ・ファシリテートする・場を提供する
- ビジョンを描きつつ現実的な一歩を踏み出す
  - ✓ 国大図協ビジョン2020で新しい枠組みが示された。しかし、目指す方向性に対して唯一の正しい道があるわけではない
    - その組織に最適な解の探求が必要
    - 初めから完璧でなくてもいい
    - 変化を恐れない

ヒントは外にある
答えは中にある